

プログラムに接触(訪問/既読)したことが「生涯にない」と回答した人で Follow-up 時点(7月から12月にかけて行われた第2回以降のパネル調査で初めて接触したと回答した人(その割合)のことを指す。また再訪問/既読(率)とは第1回の横断調査時点で、対象となる介入プログラムに接触(訪問/既読)したことが「生涯にある」と回答した人で2回目以降のパネル調査時点でも繰り返し接触したと回答した人(その割合)のことを指している)。

新規利用者(率)とは、対象者のリクルート時点で過去6ヶ月間に対象となる商業施設を利用していなかった人であり、その後のパネル調査時点(5月-12月)では利用したことがあると回答した人(その割合)のことを指す(図13)。また再利用者(率)とは、対象者のリクルート時点で過去6ヶ月間に対象となる商業施設を利用していた人でその後のパネル調査(5月-12月)でも利用したことがあると回答した人(その割合)とした。

D. 考察

パネル調査を実施することで、同一対象者の複数時点間の行動の変化をとらえることが可能になり、ゲイ向け商業施設の利用頻度、新規利用者、予防啓発への接触と行動変容の因果関係を検証することも可能となった。

次年度は、GCQを引き続き実施し、特に各地域が焦点を絞った検査行動、予防行動促進のための介入を行い、その介入の前後でその

介入を実施した地域の MSM に対して GCQ アンケートを実施し、コミュニティの変化を確実にとらえられるようにすることを目指す。ただし関東、関西地域以外の地域ではパネル調査への継続協力者数が限られており、第1回の調査でのさらなる対象者数の確保が重要となる。今後は、検査行動や予防行動とコミュニティで展開した介入の接触の関連について、相対危険を算出し因果関係について検討を行っていく。

E. 結語

本年度は昨年度から調査を準備、開始してきたインターネット横断調査および追跡パネル調査計4回を全地域で実施した。今回の追跡パネル調査対象者は、従来のバー調査、クラブイベント調査と比較して、若干若い年齢層が多い、関東地域在住者が多いなどの偏りがあった。しかし性感染症の罹患歴、性行動の活発度には継続調査参加群と非参加群に差はなかった。一定の偏りに注意はする必要があるが、介入効果評価に資するデータとなると考える。

パネル調査により、コミュニティセンターの新規訪問率は1か月間では1.7%(5月末から7月初め)、3か月の間(9月から12月)では3.8%であった。コミュニティペーパーの新規購読率は1か月間(5月末から7月初め)では5.6%であった。また購読者における再購読率もいずれの調査期間においても50%を超えていた。

次年度は、各地域が焦点を絞った検査行動、予防行動促進のための介入を行い、その介入の前後でその介入を実施した地域の MSM に対して GCQ アンケートを実施し、コミュニティの変化を確実にとらえられるようにすることを目指す。

F. 発表論文等

1. Jane Koerner, Satoshi Shiono, Seiichi

Ichikawa, Noriyo Kaneko, Hiroyuki Tsuji, Toshio Machi, Daisuke Goto and Tetsuro Onitsuka: Factors associated with unprotected anal intercourse and age among men who have sex with men who are gay bar customers in Osaka, Japan, Sexual Health, 9(4), 328-333, 2012

2. 金子典代, 塩野徳史, コーナ・ジェーン, 新ヶ江章友, 市川誠一: 日本人成人男性に

おける生涯での HIV 検査受検経験と関連要因, 日本エイズ学会誌, 14, 99-105, 2012 (口頭発表)

1. Noriyo Kaneko: Strategic Research to promote HIV testing among MSM (Men who have sex with men) in the wider Tokyo and Osaka regions, The 12th Asia-Oceania Congress of Sexology, Kunibiki Messe, Matsue, 2012.8

表 1. 追跡パネル調査における分析対象者の基本属性 (n=650)

n (%)		n (%)	
居住ブロック		年齢層	
北海道ブロック	12 (1.8)	19歳以下	49 (7.5)
東北ブロック	27 (4.2)	20-29歳	320 (49.2)
関東ブロック	303 (46.6)	30-39歳	190 (29.2)
甲信越ブロック	5 (0.8)	40-49歳	78 (12.0)
北陸ブロック	8 (1.2)	50-59歳	12 (1.8)
東海ブロック	36 (5.5)	60歳以上	1 (0.2)
近畿ブロック	126 (19.4)	性的指向	
中国ブロック	16 (2.5)	ゲイ(同性愛者)	542 (83.4)
四国ブロック	36 (5.5)	バイ(両性愛者)	88 (13.5)
九州ブロック	61 (9.4)	その他	20 (3.1)
沖縄ブロック	18 (2.8)	婚姻状況	
その他	2 (0.3)	結婚している	17 (2.6)
居住期間		結婚していない	633 (97.4)
生まれてからずっと	229 (35.2)	現在の雇用形態	
1年未満	56 (8.6)	自営業	53 (8.2)
1年～5年未満	143 (22.0)	正規雇用	270 (41.5)
5年～10年未満	80 (12.3)	非正規雇用	157 (24.2)
10年～20年未満	74 (11.4)	働いていない	117 (18.0)
20年以上	68 (10.5)	その他	53 (8.2)
居住形態		健康保険の加入状況	
一人暮らし	296 (45.5)	国民健康保険	209 (32.2)
家族と同居	283 (43.5)	職場の健康保険	290 (44.6)
家族以外と同居	71 (10.9)	被扶養者の健康保険	119 (18.3)
最終学歴		持っていない	32 (4.9)
中学校	21 (3.2)		
高校	164 (25.2)		
専門学校・高専	89 (13.7)		
短大	20 (3.1)		
大学・大学院	342 (52.6)		
その他	14 (2.2)		

表 2. インターネット横断調査における居住ブロック別分析 1

	居住ブロック														合計 n=3027	Pearson χ^2			
	東北 n=153		関東 n=855		東海 n=342		近畿 n=491		中国・四国 n=444		九州 n=403		沖縄 n=245				その他 n=94		
年齢																			
24歳以下	46	30.1%	290	33.9%	116	33.9%	186	37.9%	102	23.0%	122	30.3%	69	28.2%	32	34.0%	963	31.8%	<0.01
25-29歳	35	22.9%	181	21.2%	118	34.5%	106	21.6%	92	20.7%	119	29.5%	54	22.0%	18	19.1%	723	23.9%	
30-34歳	30	19.6%	160	18.7%	48	14.0%	86	17.5%	73	16.4%	76	18.9%	58	23.7%	24	25.5%	555	18.3%	
35-39歳	25	16.3%	112	13.1%	36	10.5%	61	12.4%	77	17.3%	50	12.4%	43	17.6%	10	10.6%	414	13.7%	
40歳以上	17	11.1%	112	13.1%	24	7.0%	52	10.6%	100	22.5%	36	8.9%	21	8.6%	10	10.6%	372	12.3%	
性的指向																			
ゲイ(同性愛者)	116	75.8%	701	82.0%	280	81.9%	399	81.3%	327	73.6%	351	87.1%	191	78.0%	73	77.7%	2438	80.5%	<0.01
バイ(両性愛者)	29	19.0%	111	13.0%	59	17.3%	71	14.5%	90	20.3%	39	9.7%	42	17.1%	13	13.8%	454	15.0%	
その他	8	5.2%	43	5.0%	3	0.9%	21	4.3%	27	6.1%	13	3.2%	12	4.9%	8	8.5%	135	4.5%	
あなたは、現在だれかと一緒に暮らしていますか？																			
一人暮らし	57	37.3%	452	52.9%	148	43.3%	233	47.5%	181	40.8%	170	42.2%	68	27.8%	51	54.3%	1360	44.9%	<0.01
家族と同居	76	49.7%	276	32.3%	165	48.2%	193	39.3%	226	50.9%	190	47.1%	147	60.0%	33	35.1%	1306	43.1%	
家族以外と同居	20	13.1%	127	14.9%	29	8.5%	65	13.2%	37	8.3%	43	10.7%	30	12.2%	10	10.6%	361	11.9%	
あなたは現在、結婚していますか？																			
結婚している	7	4.6%	20	2.3%	9	2.6%	6	1.2%	33	7.4%	6	1.5%	5	2.0%	3	3.2%	89	2.9%	<0.01
結婚していない	146	95.4%	835	97.7%	333	97.4%	485	98.8%	411	92.6%	397	98.5%	240	98.0%	91	96.8%	2938	97.1%	
あなたは現在、健康保険を持っていますか？																			
国民健康保険	39	25.5%	305	35.7%	97	28.4%	158	32.2%	141	31.8%	137	34.0%	72	29.4%	40	42.6%	989	32.7%	0.00
職場の健康保険	85	55.6%	396	46.3%	202	59.1%	221	45.0%	249	56.1%	208	51.6%	138	56.3%	43	45.7%	1542	50.9%	
被扶養者の健康保険	21	13.7%	128	15.0%	35	10.2%	89	18.1%	38	8.6%	35	8.7%	25	10.2%	9	9.6%	380	12.6%	
持っていない	8	5.2%	26	3.0%	8	2.3%	23	4.7%	16	3.6%	23	5.7%	10	4.1%	2	2.1%	116	3.8%	

表 3. インターネット横断調査における居住ブロック別分析 2

	居住ブロック														Pearson χ^2				
	東北 n=153		関東 n=855		東海 n=342		近畿 n=491		中国・四国 n=444		九州 n=403		沖縄 n=245			その他 n=94		合計 n=3027	
次の中で過去6カ月間に利用したものはありますか？（あてはまるものすべて）																			
ゲイバー	97	63.4%	587	68.7%	266	77.8%	308	62.7%	286	64.4%	298	73.9%	178	72.7%	57	60.6%	2077	68.6%	<0.01
ゲイナイト	26	17.0%	264	30.9%	194	56.7%	185	37.7%	127	28.6%	177	43.9%	106	43.3%	22	23.4%	1101	36.4%	<0.01
ゲイショップ	40	26.1%	287	33.6%	90	26.3%	163	33.2%	58	13.1%	95	23.6%	32	13.1%	20	21.3%	785	25.9%	<0.01
PC出会い系サイト	42	27.5%	251	29.4%	80	23.4%	147	29.9%	117	26.4%	77	19.1%	50	20.4%	20	21.3%	784	25.9%	<0.01
携帯出会い系サイト	76	49.7%	308	36.0%	153	44.7%	209	42.6%	184	41.4%	175	43.4%	105	42.9%	20	21.3%	1230	40.6%	<0.01
mixiなどのSNS	76	49.7%	519	60.7%	189	55.3%	275	56.0%	213	48.0%	235	58.3%	84	34.3%	54	57.4%	1645	54.3%	<0.01
エロ系SNS	42	27.5%	241	28.2%	71	20.8%	117	23.8%	105	23.6%	113	28.0%	33	13.5%	27	28.7%	749	24.7%	<0.01
スマートフォンのゲイ向けアプリ	61	39.9%	495	57.9%	213	62.3%	292	59.5%	230	51.8%	248	61.5%	104	42.4%	46	48.9%	1689	55.8%	<0.01
ゲイ向けサークル	6	3.9%	129	15.1%	33	9.6%	63	12.8%	33	7.4%	38	9.4%	22	9.0%	6	6.4%	330	10.9%	<0.01
ゲイ向け合コン	1	0.7%	38	4.4%	48	14.0%	28	5.7%	6	1.4%	10	2.5%	4	1.6%	1	1.1%	136	4.5%	<0.01
ゲイの乱パ	3	2.0%	29	3.4%	6	1.8%	4	0.8%	5	1.1%	4	1.0%	5	2.0%	3	3.2%	59	1.9%	0.02
有料のハッテン場	31	20.3%	201	23.5%	99	28.9%	151	30.8%	82	18.5%	129	32.0%	78	31.8%	15	16.0%	786	26.0%	<0.01
野外のハッテン場	6	3.9%	50	5.8%	19	5.6%	21	4.3%	43	9.7%	14	3.5%	25	10.2%	4	4.3%	182	6.0%	<0.01
ハッテン場で有名な公共施設	15	9.8%	132	15.4%	53	15.5%	63	12.8%	73	16.4%	51	12.7%	37	15.1%	11	11.7%	435	14.4%	0.35
いずれも利用なし	5	3.3%	30	3.5%	2	0.6%	17	3.5%	21	4.7%	11	2.7%	6	2.4%	7	7.4%	99	3.3%	0.02

表 4. インターネット横断調査における居住ブロック別分析 3

	居住ブロック												合計 n=3027	Pearson χ^2					
	東北 n=153	関東 n=855	東海 n=342	近畿 n=491	中国・四国 n=444	九州 n=403	沖縄 n=245	その他 n=94											
これまでHIV抗体検査を受けようと思ったことはありますか？																			
ある	122	79.7%	647	75.7%	276	80.7%	392	79.8%	322	72.5%	332	82.4%	213	86.9%	71	75.5%	2375	78.5%	<0.01
ない	31	20.3%	208	24.3%	66	19.3%	99	20.2%	122	27.5%	71	17.6%	32	13.1%	23	24.5%	652	21.5%	
これまでHIV抗体検査を受けたことはありますか？																			
ある	89	58.2%	454	53.1%	208	60.8%	293	59.7%	223	50.2%	216	53.6%	158	64.5%	47	50.0%	1688	55.8%	<0.01
ない	64	41.8%	401	46.9%	134	39.2%	198	40.3%	221	49.8%	187	46.4%	87	35.5%	47	50.0%	1339	44.2%	
これまでHIV抗体検査を受けた場所はどこですか？（あてはまるものすべて）																			
保健所の通常検査	48	31.4%	256	29.9%	90	26.3%	150	30.5%	101	22.7%	115	28.5%	67	27.3%	29	30.9%	856	28.3%	0.14
保健所の即日検査	30	19.6%	125	14.6%	96	28.1%	70	14.3%	97	21.8%	98	24.3%	93	38.0%	6	6.4%	615	20.3%	<0.01
保健所の夜間検査	8	5.2%	21	2.5%	16	4.7%	27	5.5%	12	2.7%	6	1.5%	9	3.7%	3	3.2%	102	3.4%	0.01
医療センターなどの病院	10	6.5%	62	7.3%	22	6.4%	53	10.8%	33	7.4%	25	6.2%	16	6.5%	8	8.5%	229	7.6%	0.20
クリニック・医院・診療所	12	7.8%	111	13.0%	23	6.7%	72	14.7%	33	7.4%	22	5.5%	10	4.1%	8	8.5%	291	9.6%	<0.01
郵送検査キット	3	2.0%	10	1.2%	14	4.1%	18	3.7%	10	2.3%	4	1.0%	2	0.8%	2	2.1%	63	2.1%	<0.01
その他	6	3.9%	53	6.2%	31	9.1%	35	7.1%	9	2.0%	10	2.5%	11	4.5%	6	6.4%	161	5.3%	<0.01
過去1年間にHIV抗体検査を受けたことはありますか？																			
ある	54	35.3%	242	28.3%	130	38.0%	178	36.3%	105	23.6%	115	28.5%	95	38.8%	23	24.5%	942	31.1%	<0.01
ない	30	19.6%	164	19.2%	68	19.9%	93	18.9%	105	23.6%	85	21.1%	53	21.6%	21	22.3%	619	20.4%	
1年以上前に陽性を確認	5	3.3%	45	5.3%	9	2.6%	21	4.3%	13	2.9%	13	3.2%	8	3.3%	2	2.1%	116	3.8%	
答えたくない	0	0.0%	3	0.4%	1	0.3%	1	0.2%	0	0.0%	3	0.7%	2	0.8%	1	1.1%	11	0.4%	
生涯なし	64	41.8%	401	46.9%	134	39.2%	198	40.3%	221	49.8%	187	46.4%	87	35.5%	47	50.0%	1339	44.2%	
過去1年間にHIV抗体検査を受けた場所はどこですか？（あてはまるものすべて）																			
保健所の通常検査	22	14.4%	121	14.2%	46	13.5%	77	15.7%	40	9.0%	49	12.2%	28	11.4%	11	11.7%	394	13.0%	0.11
保健所の即日検査	18	11.8%	71	8.3%	58	17.0%	34	6.9%	40	9.0%	49	12.2%	57	23.3%	3	3.2%	330	10.9%	<0.01
保健所の夜間検査	5	3.3%	9	1.1%	9	2.6%	10	2.0%	7	1.6%	5	1.2%	5	2.0%	1	1.1%	51	1.7%	0.38
医療センターなどの病院	4	2.6%	17	2.0%	10	2.9%	23	4.7%	11	2.5%	13	3.2%	11	4.5%	5	5.3%	94	3.1%	0.12
クリニック・医院・診療所	6	3.9%	39	4.6%	10	2.9%	40	8.1%	16	3.6%	14	3.5%	5	2.0%	1	1.1%	131	4.3%	<0.01
郵送検査キット	3	2.0%	5	0.6%	6	1.8%	12	2.4%	3	0.7%	0	0.0%	2	0.8%	0	0.0%	31	1.0%	0.01
その他	2	1.3%	21	2.5%	12	3.5%	8	1.6%	5	1.1%	2	0.5%	2	0.8%	5	5.3%	57	1.9%	0.01

表 5. インターネット横断調査における居住ブロック別分析 4

	居住ブロック														合計 n=3027	Pearson χ^2			
	東北 n=153		関東 n=855		東海 n=342		近畿 n=491		中国・四国 n=444		九州 n=403		沖縄 n=245				その他 n=94		
あなたの友達や知り合いにHIVに感染している人はいると思いますか？																			
いる	39	25.5%	285	33.3%	75	21.9%	150	30.5%	102	23.0%	83	20.6%	63	25.7%	21	22.3%	818	27.0%	<0.01
いると思う	32	20.9%	217	25.4%	82	24.0%	100	20.4%	80	18.0%	94	23.3%	48	19.6%	24	25.5%	677	22.4%	
いないと思う	38	24.8%	125	14.6%	75	21.9%	91	18.5%	121	27.3%	74	18.4%	51	20.8%	23	24.5%	598	19.8%	
いない	10	6.5%	32	3.7%	36	10.5%	39	7.9%	23	5.2%	19	4.7%	24	9.8%	8	8.5%	191	6.3%	
わからない	34	22.2%	196	22.9%	74	21.6%	111	22.6%	118	26.6%	133	33.0%	59	24.1%	18	19.1%	743	24.5%	
過去6カ月間に彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがありますか？																			
ある	46	30.1%	269	31.5%	101	29.5%	157	32.0%	116	26.1%	135	33.5%	87	35.5%	29	30.9%	940	31.1%	0.22
ない	63	41.2%	319	37.3%	139	40.6%	184	37.5%	181	40.8%	135	33.5%	82	33.5%	44	46.8%	1147	37.9%	
彼氏・恋人がいなかった	44	28.8%	267	31.2%	102	29.8%	150	30.5%	147	33.1%	133	33.0%	76	31.0%	21	22.3%	940	31.1%	
過去6カ月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか？																			
ある	78	51.0%	501	58.6%	173	50.6%	287	58.5%	206	46.4%	218	54.1%	134	54.7%	47	50.0%	1644	54.3%	<0.01
ない	75	49.0%	354	41.4%	169	49.4%	204	41.5%	238	53.6%	185	45.9%	111	45.3%	47	50.0%	1383	45.7%	
次の中で、これまでにかかったことがある性感染症はありますか？（あてはまるものすべて）																			
梅毒	9	5.9%	70	8.2%	10	2.9%	38	7.7%	25	5.6%	25	6.2%	17	6.9%	4	4.3%	198	6.5%	0.05
A型肝炎	0	0.0%	12	1.4%	1	0.3%	5	1.0%	1	0.2%	1	0.2%	0	0.0%	1	1.1%	21	0.7%	0.06
B型肝炎	4	2.6%	59	6.9%	27	7.9%	33	6.7%	22	5.0%	20	5.0%	18	7.3%	2	2.1%	185	6.1%	0.11
C型肝炎	1	0.7%	8	0.9%	1	0.3%	3	0.6%	3	0.7%	1	0.2%	1	0.4%	0	0.0%	18	0.6%	0.80
クラミジア	2	1.3%	68	8.0%	18	5.3%	39	7.9%	29	6.5%	28	6.9%	12	4.9%	4	4.3%	200	6.6%	0.05
尖圭コンジローマ	2	1.3%	48	5.6%	7	2.0%	22	4.5%	10	2.3%	8	2.0%	8	3.3%	0	0.0%	105	3.5%	<0.01
淋病	6	3.9%	39	4.6%	9	2.6%	33	6.7%	20	4.5%	11	2.7%	3	1.2%	1	1.1%	122	4.0%	<0.01
HIV感染症	5	3.3%	60	7.0%	10	2.9%	29	5.9%	20	4.5%	13	3.2%	14	5.7%	2	2.1%	153	5.1%	0.02
赤痢アメーバ	1	0.7%	9	1.1%	3	0.9%	3	0.6%	9	2.0%	4	1.0%	1	0.4%	0	0.0%	30	1.0%	0.37
毛じらみ	41	26.8%	219	25.6%	74	21.6%	131	26.7%	98	22.1%	112	27.8%	68	27.8%	8	8.5%	751	24.8%	<0.01
性器ヘルペス	3	2.0%	19	2.2%	1	0.3%	7	1.4%	10	2.3%	6	1.5%	2	0.8%	1	1.1%	49	1.6%	0.31
その他	1	0.7%	18	2.1%	1	0.3%	5	1.0%	4	0.9%	4	1.0%	3	1.2%	1	1.1%	37	1.2%	0.24
いずれもなし	103	67.3%	520	60.8%	233	68.1%	283	57.6%	293	66.0%	249	61.8%	146	59.6%	79	84.0%	1906	63.0%	<0.01

表 6. インターネット横断調査における居住ブロック別分析 5

	居住ブロック												合計 n=3027	Pearson χ^2					
	東北 n=153	関東 n=855	東海 n=342	近畿 n=491	中国・四国 n=444	九州 n=403	沖縄 n=245	その他 n=94											
これまで男性とセックスをしたことがありますか？																			
ある	145	94.8%	784	91.7%	322	94.2%	468	95.3%	418	94.1%	387	96.0%	232	94.7%	82	87.2%	2838	93.8%	0.01
ない	8	5.2%	71	8.3%	20	5.8%	23	4.7%	26	5.9%	16	4.0%	13	5.3%	12	12.8%	189	6.2%	
過去6カ月間に、コンドームを買ったことがありますか？																			
ある	80	52.3%	335	39.2%	136	39.8%	197	40.1%	166	37.4%	161	40.0%	98	40.0%	41	43.6%	1214	40.1%	0.11
ない	73	47.7%	520	60.8%	206	60.2%	294	59.9%	278	62.6%	242	60.0%	147	60.0%	53	56.4%	1813	59.9%	
過去6カ月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか？																			
いつも持っていた	65	42.5%	279	32.6%	131	38.3%	190	38.7%	159	35.8%	154	38.2%	112	45.7%	23	24.5%	1113	36.8%	<0.01
時々持っていた	40	26.1%	221	25.8%	80	23.4%	142	28.9%	108	24.3%	105	26.1%	65	26.5%	30	31.9%	791	26.1%	
持っていなかった	48	31.4%	355	41.5%	131	38.3%	159	32.4%	177	39.9%	144	35.7%	68	27.8%	41	43.6%	1123	37.1%	
過去6ヶ月間に、口内射精をしたことがありますか？または、口内射精をされたことはありますか？																			
口内射精したことがある	35	22.9%	173	20.2%	94	27.5%	118	24.0%	77	17.3%	99	24.6%	61	24.9%	24	25.5%	681	22.5%	<0.01
口内射精されたことがある	34	22.2%	99	11.6%	40	11.7%	78	15.9%	67	15.1%	63	15.6%	38	15.5%	13	13.8%	432	14.3%	
どちらもある	30	19.6%	209	24.4%	62	18.1%	92	18.7%	88	19.8%	86	21.3%	37	15.1%	24	25.5%	628	20.7%	
どちらもない	54	35.3%	374	43.7%	146	42.7%	203	41.3%	212	47.7%	155	38.5%	109	44.5%	33	35.1%	1286	42.5%	
次のうち、過去6カ月間のセックスの時に使用したものはありますか？（あてはまるものすべて）																			
ぼっき薬(バイアグラなど)	14	9.2%	73	8.5%	18	5.3%	46	9.4%	31	7.0%	29	7.2%	16	6.5%	5	5.3%	232	7.7%	0.35
ラッシュ	17	11.1%	90	10.5%	26	7.6%	61	12.4%	23	5.2%	39	9.7%	21	8.6%	6	6.4%	283	9.3%	0.01
5MEO-DIPT	1	0.7%	3	0.4%	1	0.3%	2	0.4%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	9	0.3%	0.68
MDMAなど	1	0.7%	5	0.6%	1	0.3%	3	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	0.3%	0.40
他のセックスドラッグ	6	3.9%	35	4.1%	6	1.8%	23	4.7%	12	2.7%	15	3.7%	5	2.0%	1	1.1%	103	3.4%	0.17
静脈注射	0	0.0%	6	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	0.2%	0.09
違法ドラッグ	0	0.0%	3	0.4%	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	0.2%	0.08
過去6ヶ月間の薬物併用経験																			
いずれもなし	127	83.0%	700	81.9%	298	87.1%	397	80.9%	388	87.4%	338	83.9%	209	85.3%	83	88.3%	2540	83.9%	0.13
バイアグラのみ	7	4.6%	43	5.0%	15	4.4%	25	5.1%	24	5.4%	17	4.2%	11	4.5%	4	4.3%	146	4.8%	
併用経験あり	19	12.4%	112	13.1%	29	8.5%	69	14.1%	32	7.2%	48	11.9%	25	10.2%	7	7.4%	341	11.3%	
これまで男性とアナルセックスをしたことがありますか？																			
ある	125	81.7%	672	78.6%	300	87.7%	429	87.4%	373	84.0%	353	87.6%	214	87.3%	63	67.0%	2529	83.5%	<0.01
ない	28	18.3%	183	21.4%	42	12.3%	62	12.6%	71	16.0%	50	12.4%	31	12.7%	31	33.0%	498	16.5%	

表7. インターネット横断調査における居住ブロック別分析 6

	居住ブロック												合計 n=2529	Pearson χ^2					
	東北 n=125	関東 n=672	東海 n=300	近畿 n=429	中国・四国 n=373	九州 n=353	沖縄 n=214	その他 n=63											
一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？																			
現在から過去6カ月間の間	105	84.0%	505	75.1%	238	79.3%	338	78.8%	275	73.7%	291	82.4%	167	78.0%	52	82.5%	1971	77.9%	0.02
過去6カ月間から過去1年間の間	5	4.0%	38	5.7%	23	7.7%	22	5.1%	17	4.6%	15	4.2%	9	4.2%	2	3.2%	131	5.2%	
1年以上前	14	11.2%	120	17.9%	33	11.0%	56	13.1%	75	20.1%	39	11.0%	32	15.0%	9	14.3%	378	14.9%	
覚えていない	1	0.8%	9	1.3%	6	2.0%	13	3.0%	6	1.6%	8	2.3%	6	2.8%	0	0.0%	49	1.9%	
一番最近にアナルセックスをした相手はどれにあてはまりますか？																			
彼氏や恋人	41	32.8%	251	37.4%	105	35.0%	126	29.4%	105	28.2%	120	34.0%	78	36.4%	21	33.3%	847	33.5%	0.06
友達やセクフレ	49	39.2%	230	34.2%	109	36.3%	133	31.0%	138	37.0%	120	34.0%	63	29.4%	21	33.3%	863	34.1%	
その場限りの相手	35	28.0%	189	28.1%	85	28.3%	168	39.2%	128	34.3%	109	30.9%	72	33.6%	21	33.3%	807	31.9%	
その他	0	0.0%	2	0.3%	1	0.3%	2	0.5%	2	0.5%	4	1.1%	1	0.5%	0	0.0%	12	0.5%	
そのときの相手とアナルセックスをしたときに、コンドームを使いましたか？																			
使用	90	72.0%	461	68.6%	202	67.3%	305	71.1%	242	64.9%	234	66.3%	148	69.2%	43	68.3%	1725	68.2%	0.79
不使用	34	27.2%	190	28.3%	92	30.7%	109	25.4%	120	32.2%	109	30.9%	61	28.5%	18	28.6%	733	29.0%	
覚えていない	1	0.8%	21	3.1%	6	2.0%	15	3.5%	11	2.9%	10	2.8%	5	2.3%	2	3.2%	71	2.8%	
そのときコンドームやローションは手の届く所にありましたか？																			
両方あった	103	82.4%	502	74.7%	224	74.7%	342	79.7%	290	77.7%	276	78.2%	160	74.8%	50	79.4%	1947	77.0%	0.85
コンドームだけあった	3	2.4%	22	3.3%	11	3.7%	9	2.1%	6	1.6%	7	2.0%	7	3.3%	1	1.6%	66	2.6%	
ローションだけあった	11	8.8%	100	14.9%	43	14.3%	54	12.6%	53	14.2%	49	13.9%	32	15.0%	5	7.9%	347	13.7%	
両方なかった	4	3.2%	24	3.6%	10	3.3%	9	2.1%	9	2.4%	9	2.5%	10	4.7%	3	4.8%	78	3.1%	
わからない/覚えていない	4	3.2%	24	3.6%	12	4.0%	15	3.5%	15	4.0%	12	3.4%	5	2.3%	4	6.3%	91	3.6%	

表 8. インターネット横断調査における居住ブロック別分析 7

	居住ブロック														合計 n=2529	Pearson χ^2				
	東北 n=125		関東 n=672		東海 n=300		近畿 n=429		中国・四国 n=373		九州 n=353		沖縄 n=214				その他 n=63			
そのときの相手と、初めて知り合ったのはどこですか？																				
ゲイバー	21	16.8%	92	13.7%	43	14.3%	41	9.6%	51	13.7%	68	19.3%	34	15.9%	11	17.5%	361	14.3%	<0.01	
ゲイナイト	3	2.4%	10	1.5%	9	3.0%	9	2.1%	13	3.5%	11	3.1%	7	3.3%	1	1.6%	63	2.5%		
ゲイショップ	0	0.0%	3	0.4%	1	0.3%	2	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	7	0.3%		
PC出会い系	12	9.6%	53	7.9%	13	4.3%	50	11.7%	47	12.6%	10	2.8%	5	2.3%	9	14.3%	199	7.9%		
携帯出会い系	43	34.4%	71	10.6%	69	23.0%	80	18.6%	103	27.6%	72	20.4%	54	25.2%	7	11.1%	499	19.7%		
mixiなどのSNS	4	3.2%	88	13.1%	14	4.7%	29	6.8%	18	4.8%	32	9.1%	8	3.7%	7	11.1%	200	7.9%		
エロ系SNS	4	3.2%	21	3.1%	6	2.0%	15	3.5%	13	3.5%	7	2.0%	4	1.9%	3	4.8%	73	2.9%		
スマートフォンのゲイ向けアプリ	12	9.6%	141	21.0%	60	20.0%	70	16.3%	60	16.1%	73	20.7%	27	12.6%	10	15.9%	453	17.9%		
ゲイ向けサークル	1	0.8%	35	5.2%	3	1.0%	11	2.6%	2	0.5%	5	1.4%	4	1.9%	0	0.0%	61	2.4%		
ゲイ向け合コン	0	0.0%	4	0.6%	6	2.0%	2	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.4%	0	0.0%	15	0.6%		
ゲイの乱パ	1	0.8%	2	0.3%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%	1	0.5%	1	1.6%	8	0.3%		
有料ハッテン場	18	14.4%	102	15.2%	51	17.0%	89	20.7%	26	7.0%	59	16.7%	44	20.6%	8	12.7%	397	15.7%		
野外ハッテン場	0	0.0%	8	1.2%	1	0.3%	4	0.9%	14	3.8%	0	0.0%	7	3.3%	0	0.0%	34	1.3%		
ハッテン場で有名な公共施設	0	0.0%	10	1.5%	5	1.7%	6	1.4%	9	2.4%	3	0.8%	5	2.3%	5	7.9%	43	1.7%		
その他・覚えていない	6	4.8%	32	4.8%	18	6.0%	21	4.9%	16	4.3%	12	3.4%	11	5.1%	0	0.0%	116	4.6%		
そのときセックスする前にコンドームについてどのように思っていましたか？																				
使いたいと思っていた	84	67.2%	447	66.5%	210	70.0%	305	71.1%	249	66.8%	233	66.0%	147	68.7%	42	66.7%	1717	67.9%	0.67	
使いたいと思っていなかった	13	10.4%	57	8.5%	24	8.0%	33	7.7%	26	7.0%	24	6.8%	16	7.5%	7	11.1%	200	7.9%		
相手に合わせようと思っていた	26	20.8%	138	20.5%	59	19.7%	75	17.5%	81	21.7%	84	23.8%	41	19.2%	9	14.3%	513	20.3%		
わからない/覚えていない	2	1.6%	30	4.5%	7	2.3%	16	3.7%	17	4.6%	12	3.4%	10	4.7%	5	7.9%	99	3.9%		
過去6ヶ月間のアナルセックス経験																				
過去6ヶ月間あり	105	84.0%	505	75.1%	238	79.3%	338	78.8%	275	73.7%	291	82.4%	167	78.0%	52	82.5%	1971	77.9%	0.04	
過去6ヶ月間なし	20	16.0%	167	24.9%	62	20.7%	91	21.2%	98	26.3%	62	17.6%	47	22.0%	11	17.5%	558	22.1%		
過去6ヶ月間に次のような関係の男性とアナルセックスをしましたか？（あてはまるものすべて）																				
彼氏や恋人	47	37.6%	236	35.1%	108	36.0%	138	32.2%	95	25.5%	125	35.4%	69	32.2%	19	30.2%	837	33.1%	0.04	
友達やセクフレ	55	44.0%	250	37.2%	110	36.7%	162	37.8%	126	33.8%	135	38.2%	60	28.0%	26	41.3%	924	36.5%		0.09
その場限りの相手	33	26.4%	213	31.7%	86	28.7%	176	41.0%	123	33.0%	127	36.0%	74	34.6%	17	27.0%	849	33.6%		

表 9. インターネット横断調査における居住ブロック別分析 8

	居住ブロック												合計 n=1971	Pearson χ^2					
	東北 n=105	関東 n=505	東海 n=238	近畿 n=338	中国・四国 n=275	九州 n=291	沖縄 n=167	その他 n=52											
過去6ヶ月間のアナルセックス相手との関係																			
特定相手のみ	68	64.8%	257	50.9%	136	57.1%	143	42.3%	141	51.3%	148	50.9%	87	52.1%	33	63.5%	1013	51.4%	<0.01
特定/不特定両方	25	23.8%	157	31.1%	59	24.8%	115	34.0%	56	20.4%	80	27.5%	31	18.6%	8	15.4%	531	26.9%	
不特定相手(その場限り)のみ	12	11.4%	91	18.0%	43	18.1%	80	23.7%	78	28.4%	63	21.6%	49	29.3%	11	21.2%	427	21.7%	
過去6ヶ月間のポジション																			
挿入のみ(タチのみ)	11	10.5%	97	19.2%	50	21.0%	65	19.2%	68	24.7%	56	19.2%	42	25.1%	10	19.2%	399	20.2%	0.09
被挿入のみ(ウケのみ)	24	22.9%	117	23.2%	55	23.1%	71	21.0%	66	24.0%	63	21.6%	27	16.2%	17	32.7%	440	22.3%	
両方(タチ・ウケ)	70	66.7%	291	57.6%	133	55.9%	202	59.8%	141	51.3%	172	59.1%	98	58.7%	25	48.1%	1132	57.4%	
コンドーム使用状況																			
非常用	60	57.1%	291	57.6%	144	60.5%	191	56.5%	151	54.9%	173	59.5%	92	55.1%	30	57.7%	1132	57.4%	0.92
常用	45	42.9%	214	42.4%	94	39.5%	147	43.5%	124	45.1%	118	40.5%	75	44.9%	22	42.3%	839	42.6%	

表 10. インターネット横断調査における居住ブロック別分析 9

	居住ブロック												合計	Pearson χ^2					
	東北	関東	東海	近畿	中国・四国	九州	沖縄	その他											
彼氏や恋人などの相手とのコンドーム使用状況																			
非常用	24	51.1%	133	56.4%	73	67.6%	84	60.9%	56	58.9%	88	70.4%	46	66.7%	12	63.2%	516	61.6%	0.11
常用	23	48.9%	103	43.6%	35	32.4%	54	39.1%	39	41.1%	37	29.6%	23	33.3%	7	36.8%	321	38.4%	
合計	47	100.0%	236	100.0%	108	100.0%	138	100.0%	95	100.0%	125	100.0%	69	100.0%	19	100.0%	837	100.0%	
友達やセフレなど恋人ではない特定の相手とのコンドーム使用状況																			
非常用	38	69.1%	134	53.6%	63	57.3%	82	50.6%	75	59.5%	78	57.8%	26	43.3%	15	57.7%	511	55.3%	0.14
常用	17	30.9%	116	46.4%	47	42.7%	80	49.4%	51	40.5%	57	42.2%	34	56.7%	11	42.3%	413	44.7%	
合計	55	100.0%	250	100.0%	110	100.0%	162	100.0%	126	100.0%	135	100.0%	60	100.0%	26	100.0%	924	100.0%	
その場限りの相手とのコンドーム使用状況																			
非常用	15	45.5%	111	52.1%	42	48.8%	89	50.6%	56	45.5%	55	43.3%	34	45.9%	10	58.8%	412	48.5%	0.75
常用	18	54.5%	102	47.9%	44	51.2%	87	49.4%	67	54.5%	72	56.7%	40	54.1%	7	41.2%	437	51.5%	
合計	33	100.0%	213	100.0%	86	100.0%	176	100.0%	123	100.0%	127	100.0%	74	100.0%	17	100.0%	849	100.0%	

表 11. インターネット横断調査における居住ブロック別分析 10

	居住ブロック										合計	Pearson χ^2					
	東北	関東	東海	近畿	中国・四国	九州	沖縄	その他									
コミュニティセンターに行ったことがありますか？																	
行ったことがある	25	16.3%	267	31.2%	57	16.7%	181	36.9%		122	30.3%	75	30.6%	727	29.2%	<0.01	
知っているが行ったことない	36	23.5%	233	27.3%	80	23.4%	125	25.5%		134	33.3%	115	46.9%	723	29.0%		
知らない	92	60.1%	355	41.5%	205	59.9%	185	37.7%		147	36.5%	55	22.4%	1039	41.7%		
合計	153	100.0%	855	100.0%	342	100.0%	491	100.0%		403	100.0%	245	100.0%	2489	100.0%		
コミュニティペーパーを読んだことがありますか？																	
読んだことがある	47	30.7%	333	38.9%	56	16.4%	321	65.4%	223	50.2%	213	52.9%	152	62.0%	1345	45.9%	<0.01
知っているが読んだことない	16	10.5%	115	13.5%	34	9.9%	28	5.7%	72	16.2%	43	10.7%	33	13.5%	341	11.6%	
知らない	90	58.8%	407	47.6%	252	73.7%	142	28.9%	149	33.6%	147	36.5%	60	24.5%	1247	42.5%	
合計	153	100.0%	855	100.0%	342	100.0%	491	100.0%	444	100.0%	403	100.0%	245	100.0%	2933	100.0%	
配布コンドームを持ち帰ったことがありますか？																	
過去1年間に持ち帰った	32	20.9%	88	25.7%			165	37.2%		147	36.5%	127	51.8%	559	35.2%	<0.01	
1年以上前に持ち帰った	18	11.8%	26	7.6%			42	9.5%		52	12.9%	29	11.8%	167	10.5%		
知っているが持ち帰ったことない	11	7.2%	21	6.1%			74	16.7%		61	15.1%	27	11.0%	194	12.2%		
知らない	92	60.1%	207	60.5%			163	36.7%		143	35.5%	62	25.3%	667	42.0%		
合計	153	100.0%	342	100.0%			444	100.0%		403	100.0%	245	100.0%	1587	100.0%		

ロジックモデルを用いた CBO による HIV 啓発活動のプロセス評価

研究分担者：本間隆之（山梨県立大学看護学部 講師）

研究協力者：後藤大輔、町登志雄、中村文昭（財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）、岳中美江

研究要旨

協力が得られた大阪の CBO との関係を構築しつつ、コミュニティセンターとしての「コミュニティスペース dista」に関するプログラム評価ワークショップを行い、参加者によるロジックモデル構築を試行した。複雑なコンセプトを持つ HIV 予防介入プログラムの理論とプロセスを明確にするという目的において、関係者間で協議しながら記述していくロジックモデルは最適なツールと考えられる。しかし、ロジックモデルの作成方法、表現方法及び活用方法にはさらなる独自の工夫を要する。また、エンパワメント評価の立場からは、ロジックモデルの構築過程の議論や参加者の考えの変化、あるいは行動の変化が評価研究の成果の重要な一部であるため、これを適切に記述できるように内容の記録や参加者の振り返りを記録していく必要がある。さらに、CBO が行っている複数のプログラムは相互に補完しあいながら機能していると考えられるため、関係する他のプログラムのモデルを並行して構築し評価することによって、関係性と役割が明確になると考える。

A. 研究背景及び目的

1. プログラム評価

Community Based Organization (CBO) による各コミュニティの文化に根差した HIV 予防啓発活動は、一つの活動に複数の多様な目的を含んでいるとともに、当該コミュニティへの親和性が高いと考えられるパッケージとして実施されているため、実験介入のようにシンプルに評価することが難しい。HIV 予防啓発のプログラム内に体系的な評価を含んで実施している例は少なく、外部者などによる体系的な評価を支援していく必要がある [Painter, 2010]。

プログラムの体系的な評価には、一般的にプロセス、アウトカム、コスト、比較優位性、一般化可能性という価値側面があり、これらを統合した評価視点として妥当性、有効性、効率性、持続可能性がある [安田&渡辺, 2008] [安田, 2011]。(財務省「政策評価に関する基本計画;平成 22 年一部改訂」では必要性、効率性、有効性、公平性、優先性としている)。

時にそういったコンセプトは担当者の交代や時間の経過とともに薄まっていくことがあり、関係者が個々に持つ表現されていないプログラムに関する認知を具体化し共有することは、プログラムの継続的運営に重要な意味を持つ [PH Rossi, 2005]。また、一般化による他地域での応用や適切な活動評価を行うためには、プログラム内で CBO が行っている活動とその期待される結果が明示されたプロセスを記述したうえで、体系的な評価を構築する必要がある [PH Rossi, 2005]。

2. ロジックモデル

米国ワシントンの政策シンクタンク Urban Institute の J. S. Wholey が 1979 年に記述して以来、プログラム企画、実施、評価を行うためのツールとして、経済や政策評価の分野で使われてきた [Wholey, 1979] [Bickman, 1987] [Chen&Rossie, 1983]。ロジックモデルはリソースと活動、期待される結果及びプログラムに潜在的に含まれる理論を、マップのように視覚的に表現する手法である

[W. K. Kellogg Foundation, 2001] [United Way of America, 1996]。コミュニティ参加による主体的取り組みによってロジックモデルはよりコミュニティにとって活用可能なものになると言われている [SA Kaplan, 2005]。

3. ロジックモデルの活用

行政レベルでは米国会計監査院 US General Accounting Office、イギリスの National audit office、カナダ Treasury board secretariat Canada などでプログラム評価実施マニュアルにおいて、ロジックモデルの概念、活用方法等の説明がある。また、非営利組織では、米国の W. K. Kellogg Foundation や United Way はロジックモデルを活用するためのガイドを作成し、助成金の申請に要する計画書に含めることとしている。

HIV/STD 予防の分野においても米国 CDC や米国心理学協会 (American Psychological Association) において、ガイドラインや書籍の中で、HIV 予防プログラムの評価手法としてロジックモデルの使用を紹介している [Chen, 2005] [CDC, Evaluating CDC-Funded Health Department HIV Prevention Programs, 2007] [CDC, Evaluation Guidance Handbook: Strategies for Implementing the Evaluation Guidance for CDC-Funded HIV Prevention Programs, 2002] [Aral SO, 2008]。

CBO によって行われているプログラムのセオリー評価についてロジックモデルを用いて記述することにより期待される効果は以下の5点である。

- 1) 作成過程で議論することにより、CBO スタッフ及びボランティアなどのプログラム関係者が個々に考えている活動の目的や期待する成果について、整理することができる。
- 2) 問題の発見や課題の整理、プログラム見直しの方向性などを考える際のツールとなる。
- 3) 新しく活動に参加しようとするボランティアや同様の活動を行おうと考えている他地域の CBO あるいは行政や出資者等に、プログラムを説明するためのツールになる。
- 4) 世代や主要メンバーが交代してもプログラムの目標を維持していくことができる記録

となる。

- 5) 活動の効率や効果などのインパクト評価を行うための適切な指標（調査項目）を設定する際の根拠資料となる。

本研究では、HIV 予防啓発活動を行っている CBO において核となるプログラムセオリー及びプロセスに関して、ロジックモデルを用いた評価方法を検討することである。

B. 研究方法

本年度は近畿地域において活動する CBO である MASH 大阪の協力を得て、コミュニティセンターとしての「コミュニティスペース dista (以下、dista)」の運営に関するプログラム評価（ロジックモデルの作成）を行なった。ロジックモデル作成に際しては、スタッフ内の現行活動に関する理解の共有と整理を意識したワークショップの運営を心掛けた。

CBO のミッション及び個別プログラムの目標と活動内容をワークショップ形式の討議により議論した。研究者が参加した3回に加えて、CBO スタッフ内での随時複数回の討議を通して、CBO スタッフ自身でロジックモデルを作成した。

第1回ワークショップでは、コミュニティセンターとしての dista の背景となる状況及び現在認識している課題を共有し整理した。主に来場者数の減少、スタッフのマネジメント等が課題として挙がっていたが、表面的な課題にとらわれず、コミュニティセンターとしての dista の目標や現状を整理するように求めた。

第2回ワークショップでは、コミュニティセンターとしての dista の対象の一部として考えられていた「ふらっと来る人」について注目し、具体化しモデルの作成を進めた。

第3回ワークショップでは、必要性、対象、期待する変化などの視点から整理し、モデルに反映した。

その後、メール等でのやり取りを通して、詳細の修正を加えた。なお、スタッフ間で検討する時間を作るように依頼し、ロジックモデルで気になる点は議論や修正をすることを勧めた。

回数	内容
1回目	コミュニティセンターとしての dista の目標を書き出し再確認した。現状として近年の状況の変化や現在プログラムに至る経緯などについて確認した。課題としては主に来場者数の減少、スタッフのマネジメント等が挙げられた。
2回目	コミュニティセンターとしての dista の対象者が不明瞭であったため、具体的にしよう勧めた。ロジックモデルに起こし、内容について議論した。
3回目	コミュニティセンターとしての dista の目標を達成するために必要となる対象の状況について検討した。それらを戦略的課題(中長期目標)としてロジックモデルの作成を開始した。dista で提供している内容を整理して書き出した。

C. 研究結果

コミュニティセンターとしての dista のロジックモデルを図1に示す。なお、本報告において提示するモデルは最終版ではなく、CBOにより適宜更新されていく中間段階のものである。

dista を運営する MASH 大阪の最終的な目的は近畿地域における MSM のセクシュアルヘルスの向上である。その目的達成のために、HIV が特別と思わなくなる、コミュニティで HIV/STI の話題を話すことができるようになる、自分で考えて情報を求め得る、自分で考えて検査を受検する、自分で考えて相談する、医療や検査相談などの社会資源が身近になり利用できる、コンドームを使う、自分らしく居られる場所があることが必要であるという考えのもとに、dista を運営していることが明確になった。MASH 大阪はこれらの課題を達成するために、dista という場において信頼関係のもとに情報の整理と設置、人の配置、勉強会等の運営を行っていた。

また、これまで明確でなかった「ふらっと来る人」に関してもワークショップの中で言及し、誰か知り合い(スタッフ含)がいるか見に来る、休憩場所として立ち寄る、バーに行くまでの時間つぶし、待ち合わせ・待ち合わせまでの時間つぶし、誰か人がいるところにいたい、行くところがない、何かやりたいけどどうしていいかわからないといった様々

な理由で気軽に立ち寄る人にとって、普通にそこにあるものとして HIV/STI の情報等を提示していることが明確になった。

D. 考察

ワークショップを行い、CBO としての目的をスタッフ間で話し合い共有するとともに、プログラムプロセスと目的についてロジックモデルを用いて整理した。スタッフ間で話し合い、これまでの活動の振り返りや現状の整理、課題の検討、将来の活動についての議論を行うことができた。

当該コミュニティセンターは従来、何でもない場所に様々な情報を置くことをコンセプトの一つとしていたため、これまで、意図的に何の場なのかを表明せずにいた。また、コミュニティセンターの対象は“コミュニティセンターに来る可能性がある人、来てほしい人”として、ロジックモデルが作られている。コミュニティセンターが日常的な交流の場として対象者が認知して利用することによって、はじめて効果的に機能するプログラムプロセスであることがわかる。アウトカム及びインパクト評価の指標としては、dista の認知とどういった場所として認知されているかについて評価を行っていく必要が示唆された。また、現在の課題として挙がっていた「来場者を増やす」ということが今後取り組むべき課題であるとすれば、どういった人に来てもらうか、そのためにどういったアピールを行うかなどの具体的な方略を考えていくうえで、従来のコンセプトについて再度理解と議論が必要となることが考えられる。

プログラムのコンセプトと実際の活動がどのようにリンクしているかについて理解する上で、図示によって記述するロジックモデルは有用であったと考えられる。なお、十分に記述しきれない部分もあると考えられるため、効果的なワークショップの方法や作業の手順について更なる検討と改善が必要と考えられる。最終的には、CBO 自身がロジックモデルを活用してプログラムの運営や発表に活用できるよう工夫し、改善していく必要がある。

E. 結語

複雑なコンセプトを持つ HIV 予防介入プログラムの理論とプロセスを明らかにするために、関係者間で協議しながら記述していくロジックモデルは最適なツールと考えられる。しかし、先行研究にはここまで詳細かつ複層的なモデルの構築や活用事例の報告がないため、作成方法、表現方法及び活用方法にはさらに独自の工夫を要する。また、エンパワメント評価の立場からは、ロジックモデルの構築過程の議論や参加者の考えの変化あるいはその後の行動の変化が評価研究の成果の重要な一部であるとされるため[Fitterman. MD, 2005]、これらを適切に記述することができるよう、討議の内容や参加者の振り返りを記録していく必要がある。

また、複数のプログラムが相互に補完しあいながら機能していると考えられるため、関係する他のプログラムのモデルを並行して構築し評価することによって、関係性と役割が明確になると考えられる。

HIV 予防に効果のある対策を進めていく上で、CBO による HIV 予防啓発プログラムのセオリー、プロセスを明確にすることにより、プログラムの意図や効果を適切に測定するアウトカム（インパクト）指標の考案を行い、評価を行っていく必要がある。

F. 発表論文等

1. 日高庸晴, 本間隆之: インターネットによる MSM の行動疫学調査-経年変化分析の結果-, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011

参考文献

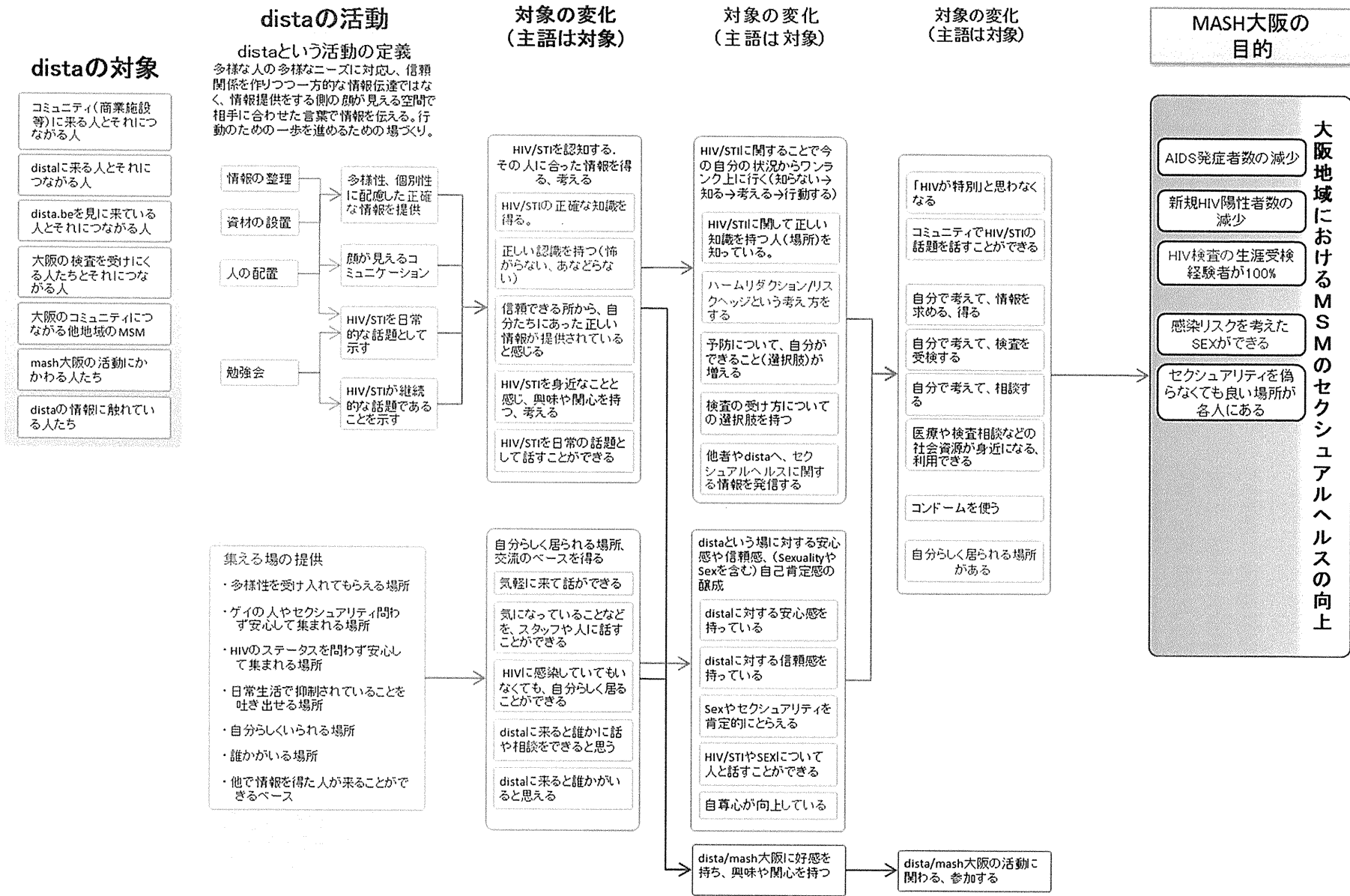
- Aral SO. (2008). Behavioral intervention for prevention and control of STD. Springer.
- Bickman L. (1987). The function of program theory using program theory in evaluation. San Francisco: Jossey-Bass.
- CDC. (2002). 参照先: Evaluation Guidance Handbook: Strategies for Implementing the Evaluation Guidance

for CDC-Funded HIV Prevention Programs: http://www.cdc.gov/hiv/topics/evaluation/health_depts/guidance/strat-handbook/pdf/guidance.pdf

- CDC. (2007). 参照先: Evaluating CDC-Funded Health Department HIV Prevention Programs: http://www.cdc.gov/hiv/topics/evaluation/health_depts/guidance/
- Chapel J. Thomas. (2008). From Data to Action: Integrating Program Evaluation and Program Improvement. 著: Aral O. Sevgi, Douglas M. (Eds.) John, Behavioral intervention for prevention and control of STD (ページ: 466-481). Springer, 2008.
- Chen & Rossie. (1983). Evaluating with sense: the theory driven approach. Evaluation review, 283-302.
- Chen H. (2005). Practical program evaluation: Assessing and improving planning implementation and effectiveness. Thousand Oak, CA: Sage.
- HT Chen. (2002). Designing and conducting participatory outcome evaluation of community-based organizations' HIV prevention Program. Aids education and prevention, 18-26.
- J S Wholey. (2010). Handbook of Practical Program Evaluation, 3ed. Jossey-Bass.
- Knowlton WL. (2009). The logic model guide book; Better strategies for great results.
- Painter TM. (2010). Strategies used by community-based organizations to evaluate their locally developed HIV prevention interventions: Lessons learned from the CDC's innovative interventions project. AIDS Educ Prev. Oct;22(5), 387-401.
- PH Rossi 大島巖(監訳). (2005). プログラム評価の理論と方法: システムティックな対人サービス政策評価の実践ガイド. 東京: 日本評論社.
- SA Kaplan. (2005). The use of logic models by community-based initiatives.

- Evaluation and Program Planning, 167-72.
- SmithMF. (1989). Evaluability assessment: A practical approach. Norwell, MA: Academic publishers.
 - TMPainter. (2010). Strategies used by community-based organizations to evaluate their locally developed HIV prevention interventions: Lessons learned from the CDC's innovative interventions project. AIDS Educ Prev. Oct;22(5), 387-401.
 - United Way of America. (1996). Measuring program outcome: A practical approach.
 - W. K. Kellogg Foundation. (2001). The logic model development guide.
 - WholeyJS. (1979). Evaluation: promise and performance,. The urban institute.
 - 安田&渡辺. (2008). プログラム評価研究の方法(臨床心理学研究法 第7巻). 東京: 新曜社.
 - 安田節之. (2011). プログラム評価;対人・コミュニティ援助の質を高めるために. 東京: 新曜社.

図 1. MASH 大阪 コミュニティセンター事業のロジックモデル (暫定版)



感染症発生動向調査からみた MSM における HIV/AIDS を含む性感染症の発生動向

研究分担者：多田有希（国立感染症研究所感染症情報センター 第二室室長）

研究協力者：塩野徳史、金子典代、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

I. 「感染症発生動向調査からみた MSM における HIV/AIDS を含む性感染症の発生動向」

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき実施されている感染症発生動向調査で、全数報告されている後天性免疫不全症候群（以下、HIV/AIDS）、B 型肝炎、アメーバ赤痢、梅毒等の 7 疾患について、感染経路が同性間性的接触と報告された男性〔以下、男性（同性間性的接触）〕の発生動向を、MSM における発生動向に近似するものとして解析した。

- HIV 感染者の男性（同性間性的接触）の HIV/AIDS のうち、AIDS 未発症の報告数は 2008 年 790 例まで増加が続き 2009 年に減少した。2010 年に再び増加したが 2008 年の報告数を超えず、2011 年、2012 年は 2 年続けて減少した。2012 年は 714 例であった。2011 年に減少した東京都は 2012 年には再増加（+39 例）したが、大阪府（-41 例）等 20 府県が減少した。2011 年・2012 年の 2 年間合計の報告（以下、2011-12 年）でみた年齢分布（0～9 歳、10～89 歳は 5 歳毎、90 歳以上の年齢群別に解析）は、20 代後半～30 代後半の 3 つの年齢群が多く、2009 年・2010 年の 2 年間合計の報告（以下、2009-10 年）と比較して、特に 30 代後半が減少した。
- AIDS 患者は 2005 年を除いて 2011 年 266 例まで増加が続いたが、2012 年は減少して 234 例であった。2011 年に HIV 感染者とともに減少した東京都は 2012 年に再増加（5 例）し、愛知県（-18 例）、大阪府（-15 例）等 22 府県で減少した。2011-12 年では 30 代後半及び 40 代前半の 2 つの年齢群が多く、2009-10 年と比較して特に 30 代が減少した。
- 男性（同性間性的接触）の男性全体の報告に占める割合は、2011-12 年報告（全国値）では、HIV/AIDS 全体で 70.0%（2009-10 年 51.5%、都道府県別では 0～100%）、HIV 感染者では 74.8%（2009-10 年 73.3%、同 0～100%）、AIDS 患者では 59.0%（2009-10 年 66.7%、同 0～100%）であった。
- AIDS 患者の HIV/AIDS 全体の報告に占める割合をみると、全国値は、男性全体で 30.4%（2009-10 年 30.2%）（0～60%）、同性間性的接触による感染と報告された者では 25.6%（2009-10 年 23.3%）（同 0～100%）、同性間性的接触以外による感染とされた者では 41.6%（2009-10 年 44.0%）（0～100%）であり、MSM の AIDS 発症前の受検行動が推察された。
- 男性（同性間性的接触）の B 型肝炎の報告数は、2010 年まで 7（2006 年）～19 例（2008 年）の範囲で推移していたが、2011 年 23 例、さらに 2012 年 30 例と増加が続いた。2011-12 年では 20 代前半～30 代前半の 3 つの年齢群が多く、2009-10 年と比較して主にこれらの 3 つの年齢群が増加した。A 型肝炎はこの間には報告がなかった。C 型肝炎は 2003～2006 年には報告がなく、2007～2011 年は 1～3 例の報告であったが、2012 年は 8 例とやや多かった。
- 梅毒は 2007 年までは 52（2003 年）～71 例（2005 年）の範囲で推移していたが、2008 年 132 例に急増後は増加傾向にあり、2012 年は 277 例であった。2011-12 年では 20 代後半～40 代前

半の4つの年齢群が多く、2009-10年と比較して、主にこれら4つの年齢群に40代後半を加えた5つの年齢群が増加し、特に40代前半、30代前半の増加が著しかった。以上のいずれも、同性間以外の性的接触による感染と報告された男性と比べて、報告数のピークとなる年齢群や年齢中央値はやや若い傾向が認められた。

- ・アメーバ赤痢は73~91例の範囲であり、増減の明らかな傾向は認められなかった。2011-12年では20代~70代に幅広く分布しており、2009-10年と比較して特に30代が減少し、20代後半が増加した。ジアルジア症は2003~2011年は1~6例の報告で、2012年は8例とやや多かった。

わが国のHIV感染者・AIDS患者を減らすためには、MSMにおける対策の推進が重点的、かつ緊急的に必要である。その実施には、感染者・患者の年齢層や地域的特徴等を把握し、同様の感染経路による他の性感染症対策と併せて、必要な対策を立案・実施することが重要である。

II. 日本国籍MSMにおける出生年代別HIV/AIDSの動向分析

日本国籍MSMにおける感染拡大の状況を把握するため、出生年代別にHIV感染者およびAIDS患者の動向を明らかにすることを目的とした。分析対象を20-59歳のMSMとし、出生年代別の動向についてMSM推定人口10万対のHIV罹患率およびAIDS罹患率を明らかにした。MSM人口は本研究班で実施されたインターネットを用いた質問紙調査(n=39,766)によって信頼性の高いMSM割合(4.6%、95%信頼区間4.4%-4.8%)を求めて推定した。またHIV感染報告数およびAIDS患者報告数は感染症発生動向調査から2000年から2011年までの動向について出生年代別に再集計を行った。

AIDS罹患率の推移をみると1950年代生まれ以外のいずれの年代でも増加傾向であるが、増加開始の時期は1960年代生まれでは2002年以降、1970年代生まれでは2003年以降、1980年代は2006年以降であった。HIV罹患率に関してMSM推定人口10万対で最も高かったのは1950年代生まれ17.7(2008年)、1960年代生まれ42.9(2007年)、1970年代生まれ66.3(2007年)、1980年代生まれ82.7(2011年)であり、出生年代層が若い群の方がより高く、検査行動が促進され早期発見につながっていると考えられるものの、予防行動がとられておらずMSMにおける感染拡大が示唆される。また感染拡大の著しさを把握するために直線回帰を用いて傾き係数を算出した。HIV罹患率は1950年代生まれ0.9807、1960年代生まれ3.179、1970年代生まれ5.7449、1980年代生まれ7.5651であり、AIDS罹患率は1950年代生まれ0.4243、1960年代生まれ1.0959、1970年代生まれ1.708であり、1980年代生まれ1.3436であった。係数はHIV罹患率では出生年代が若くなるほど大きく、1980年代生まれでの感染拡大が示唆された。AIDS罹患率では1970年代生まれが最も大きい係数であった。

A. 研究目的

I. 感染症発生動向調査からみたMSMにおけるHIV/AIDSを含む性感染症の発生動向

後天性免疫不全症群(AIDS未発症のHIV感染者及びAIDS指標疾患を発病したAIDS患者:以下、HIV/AIDS)の発生動向調査は1984年に開始され、1989年以降は「後天性免疫不

全症候群の予防に関する法律(エイズ予防法)」に基づき、また1999年4月以降は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」に基づき、全数把握が継続されている(凝固因子製剤による感染の症例については別個の調査が行われている)。感染症法に基づいて作成された「後天性

免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」には、後天性免疫不全症候群の最大の感染経路（以下、感染経路）が性的接触であること、性感染症の罹患と HIV 感染の関係が深いこと等から、予防及び医療の両面において、性感染症対策との連携を図ることが重要である、と述べられている。

このように、HIV/AIDS を含む性感染症については、一疾患毎の対策にとどめず、同様の感染経路による感染症として、性感染症全体で捉えた対策を実施することが重要である。そのため、本研究では、感染症法に基づいて実施されている感染症発生動向調査から、性的接触を感染経路とする疾患の発生動向を知り、今後の MSM における HIV/AIDS を含む性感染症対策に資することを目的とする。

II. 日本国籍 MSM における出生年代別 HIV/AIDS の動向分析

MSM における感染拡大の状況を把握するため、出生年代別に HIV 感染者および AIDS 患者の動向を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

I. 感染症発生動向調査からみた MSM における HIV/AIDS を含む性感染症の発生動向

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV 感染対策とその介入効果に関する研究（研究代表者 市川誠一）」の一部として、2009 年度に本研究を開始した。2009 年度には、感染症発生動向調査から MSM における性感染症の発生状況の捕捉が可能かを検討した。その結果、定点把握疾患（性器クラミジア症、性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、淋菌感染症）は、その届出内容が、男女別・年齢群別の患者数のみであるため、MSM における発生状況の把握は不可能であった。一方、性的接触が感染経路となる全数把握疾患（HIV/AIDS、A 型、B 型、C 型肝炎、アメーバ赤痢、ジアルジア症、梅毒）においては、そ

れらの届出様式の感染原因・感染経路の記載項目に、「性的接触」（後天性免疫不全症候群では「性行為感染」と表記）が選択肢の一つとなっている。その詳細項目として「同性間性的接触」が報告された男性の動向をみるのが、MSM における発生動向の把握に近似するものと考えられ、それらの 2003～2008 年の年間報告数をみた。2010 年度の研究で、さらに 2010 年までの年間報告数や年齢分布をみた。2011 年度にはこれを継続し、さらに、都道府県毎の HIV/AIDS 男性における同性間性的接触の占める割合、及び、AIDS の占める割合を検討した。本年度はこれらに加えて、2011 年と 2012 年の報告数推移を検討した。

感染症発生動向調査では、疾患毎に届出基準があり、基準に合致するものが、所定の届出様式により、診断した医師から保健所に届けられ、都道府県を介して国に報告されている。データは、国立感染症研究所において、感染症サーベイランスシステム（National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases: NESID）から抽出し、1 年は第 1～52（53）疫学週として、診断日に基づき集計した。そのため、エイズ発生動向調査の集計とは報告数が異なっている。

報告数や報告内容は、追加や修正等により変更される場合があり、データの取得日により異なることがある。今年度の研究では、2013 年 1 月 23 日現在報告データにより実施した。

感染経路の報告に関しては、多くは推定の報告であること（HIV/AIDS は届出様式上推定のみ。他の疾患は推定・確定を医師の判断で選択するようになっている）、必ずしも十分な問診の後に判断されたものではない場合もあると考えられること、このためもあり不明の報告も少なくないこと等の制限があることに注意が必要である。

都道府県別の集計については、対象とした疾患のうち、HIV/AIDS では最近数年間の主な居住地（国内は都道府県まで、国外は国名以